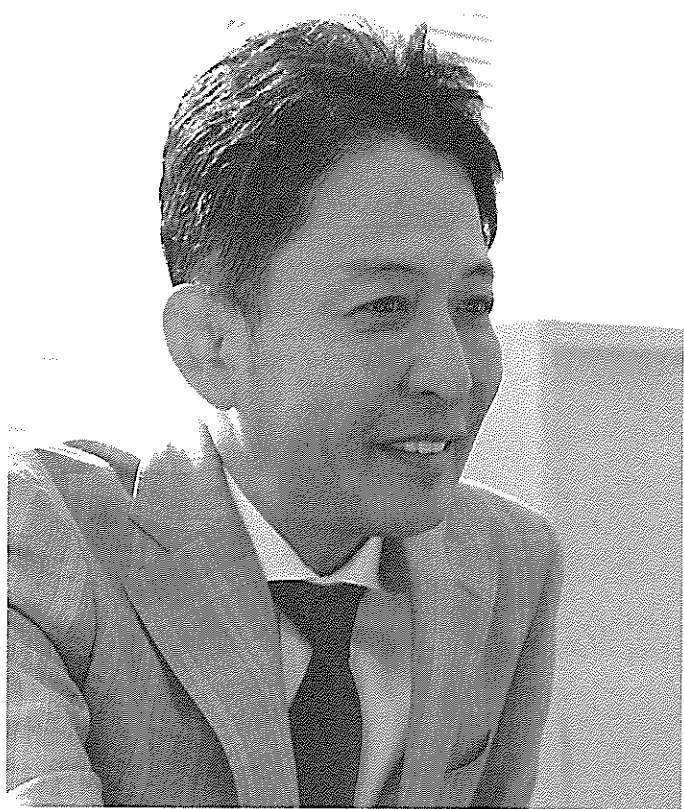


亡き妹の面影を胸に 受刑者の社会復帰を支援

いま、日本の刑務所や少年院で服役する受刑者は約五万人。その約半数が、出所後に再び犯罪を起こすという。一筋縄ではいかない受刑者の更生支援に、並々ならぬ情熱で取り組む草刈健太郎氏を突き動かすものは何か。その原点と、活動に懸ける思いを伺った。



くさかり・けんたろう——昭和48年大阪府生まれ。近畿大学法学部卒業。カンサイ建築工業、日之出塗装工業、オープンブックマネジメントの社長を務める傍ら、日本財団の再犯防止プロジェクト「職親プロジェクト」の立ち上げメンバーとして、受刑者の社会復帰促進就労支援を実施。また、自ら設立したOMOIYARIプロジェクトの代表理事として、就労支援以外に被災地支援や発展途上国支援などにも邁進。著書に『お前の親になつた』（小学館集英社プロダクション）がある。

「俺がおまえの親になつた」

草刈さんは大阪で事業を営む傍ら、犯罪を起こした人の社会復帰支援にも力を注いでおられるそうですね。

草刈 はい。二〇一三年に法務省、日本財団と私たち民間企業が協力して立ち上げた「職親プロジェクト」で、刑務所や少年院から出てきた人の就労と更生を支援しています。

日本にはいま、刑務所に入っている人が約五万人いて、その二人に一人が出所後に再び犯罪を起こすといわれています。せつかく嵬の中で反省してやり直そうとして

も、所持金が少ないため新たに部屋を借りるお金もなく、以前過ごしていた環境から抜け出せなかったり、受け入れてくれる企業が少なく、働き口がない中で再び罪を起こしてしまうことが多いんです。ですから私たちは、彼らの住む場所と仕事の世話をし、再チャレンジの後押しをすることを通じて再犯防止に繋げていきたいと考えています。「俺がおまえの親になつた」という気持ちで、行き場のない彼らを引き受けているんです。私自身は、建設会社と塗装会社と人材派遣会社の三社を経営していて、これまで三十人以上をそこで雇ってきました。

雇った人は、うまく職場に馴

染んでいますか。

草刈 現場監督をやりたいと言う子がいますね。現場監督というのは職人さんと違って大勢の人をまとめる管理職なので、結構勉強しないとイケないんですが、一所懸命努力して、いまは立派に務めを果たしてくれています。

それから、うちで雇った後で仲の悪かった兄と和解し、いまはその兄が営む防水工事の会社に移って、うちの下請けで仕事をしてくれている子もいます。

ただ、仕事が続かずに辞めていく子が大半ですね。中には、仮釈放を早く取るためにうちを利用して、すぐに逃げ出してしまいうケースもあったり。後のことが気になるので、辞めた子とは連絡を取り続けていますけれど。

もちろんうちの仕事が終わらない場合もあるので、別の就職口を探してあげたり、精神疾患だったら治療をしながら仕事に順応させたりすることもあります。とにかくいろいろなタイプがあるので、入所している時から様子を見に行ったり、どういふ人間なのかを把握した上で、その子に合った更生の道筋を考えるようにしています。

とにかく離さないこと。愛情を込めて向き合うことが大事だというのが実感です。

きつと妹が導いてくれたのだ

なぜ、そうした苦勞をあえて背負い込んで活動を続けておられるのでしょうか。

草刈 私の心の中に常にいるのが、いまから十六年前にアメリカで亡くなった妹・福子のことです。

福子は私より七つ年下で、映画の仕事に憧れてアメリカへ渡り、制作のアルバイトをしながら勉強していました。ところが、向こうで知り合い、結婚した男に殺されてしまったんです。ナイフで二十数か所も刺されるといふ悲惨極まりない最期でした……。

大切な、大切な妹を殺された悲しみと怒りは、とても言葉では表現できません。そんな私たちが家族に追い打ちをかけるように、男は無罪を主張したのです。日米を何度も行き来して裁判に臨むことになりましたが、男に反省の色は全く窺えず、公判の度に事件と向き合う精神的、肉体的負担は途轍もないものでした。



受刑者の就労支援について意見を述べる草刈氏

四年後によくやく有罪が確定しましたが、それで妹が帰ってくるわけではありません。癒えない悲しみに、何もかも投げ出したくなることもありましたが、たぐさんの方々からの温かい励ましのおかげで、何とか立ち直ることができました。

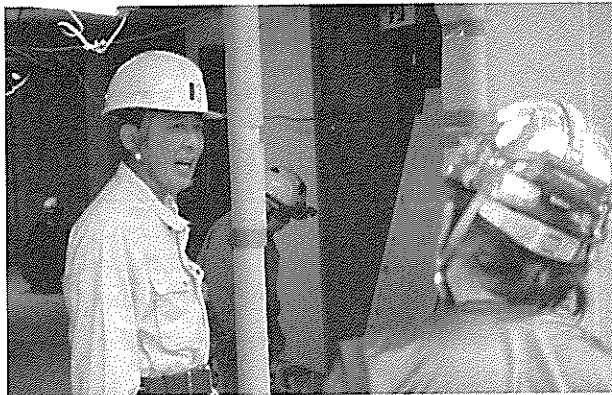
想像を絶するご体験です……。草刈 そんな私がいまの活動を手掛けるようになったのは、東日本大震災の被災地で炊き出し支援をした時にお世話になった、全国にお好み焼店を展開する千房の中井正嗣社長（現会長）から、「受刑者の就労支援を手伝ってほしいか」というお誘いをいただいたことがきっかけでした。

正直言って、最初は随分戸惑いました。犯罪によって地獄の底に

突き落とされる辛さ、そこから這い上がる大変さを身に染みて味わってきた俺が、何で犯罪者の面倒を見なければあかんねん。それでもお誘いをいただいて職親プロジェクトに名を連ねた以上、取り敢えず何人か雇って実績だけつくり、早々に身を退こうというのが率直な思いでした。

最初は乗り気ではなかった。草刈 そんな折に、職親プロジェクトのことがテレビ番組で取り上げられました。妹の事件にまつわる映像を交えて、犯罪の被害者遺族である私がプロジェクトに参加していることにスポットが当てられました。

事件のことはほとんどの知人が知っていたのですが、私をプロジェクトに誘ってくださいった中井社長は、テレビで初めて私が犯罪の被害者遺族であることを知って驚愕され、辛い思いをさせて申し訳なかったと謝ってくださいました。けれども私は、テレビに映った妹の写真を見た時、背中にゾクッとするような不思議な感覚が走りまわりました。もし中井社長が事件のことをご存じだったら、自分はプロジェクトに誘われず、犯罪者を



「引き受けた人が無事更生を果たしてくれること、この喜びに勝るものはありません」

出所後に少

入っている時から十分更生の働きかけをしなければならぬという思いを強くしています。もちろん更生活動は行われているんですが、座学が中心で、服役中にせっせかく免許を取っても、その免許を生かせる職に就いていないケースがほとんどなんです。

併せて、約二万四千社の協力雇用主様を刑務所向けに発行する機関誌で順次紹介して、

でも自分合った仕事に就いてもらうためのサポートを行うと共に、もっと多くの事業主様に協力雇用主になっていただくための働きかけも行っていきたいと考えています。

「因果応報」という言葉を支えに。

草刈 この活動を辞めてしまおうかと思いついた時に、懇意にしていた茶道真千家の千宗室先生が教えてくださったんです。

「福子、俺をこの活動に導いてくれてありがとう」

草刈 彼らの多くは、親の愛情を十分受けずに育っています。そのため人を信じられず、社会にも反

草刈 父親がいなくて、母親が認知症という苛酷な環境で育った子がいます。親の愛情を知らずに育ったこともあってか、嘘ばかりつくんです。毎週のように財布を落としたりとか、風邪をひいたとか、すぐバレるような変な嘘をね。それで、こいつの嘘にことん付き合ったらどう思うんです。そうすると、相手の嘘を全部覚えておかないと話が合わせられないから大変です。しばらく続けて「俺は

草刈 窃盗を繰り返して逮捕された子もいました。出所した彼をうちで引き受けたんですが、しばらくすると先輩の財布からお金を盗んでしまいました。何とか和解させたんですが、また盗んで行方をくらましてしまいました。

草刈 彼らの多くは、親の愛情を十分受けずに育っています。そのため人を信じられず、社会にも反

草刈 最近、刑務所や少年院に

怖いもの知らずの相手にどう向き合うか

「きつと福子が導いてくれたんだ。福子がやれと言っているに違いない」

「あぁ、三年がかりで更生を。草刈 窃盗を繰り返して逮捕された子もいました。出所した彼をうちで引き受けたんですが、しばらくすると先輩の財布からお金を盗んでしまいました。何とか和解させたんですが、また盗んで行方をくらましてしまいました。」

「問題の根は深かった。草刈 薬物のことをいろいろ調べてみると、しっかり汗をかいてはミネラルを補給して、体から薬を抜いていくことが大事だといいま

ただ世間からは、「悪いことをした奴らをそんなに甘やかすな」という批判をよくいただきます。けれども彼らを放っておけば、再び犯罪を起してしまうかもしれない。最近はずいぶんナイフで人を刺したり、簡単に無差別殺人を起